

私立大学情報教育協会
平成28年度
大学職員情報化研究講習会
基礎講習コース報告

F1班Charlie



F1 Charlie班の紹介



発表テーマ

今の社会に必要な人材を
輩出するための
職員のあり方・教員・学生との
関わり方



今の社会に求められる人材を輩出するために

テーマ選定理由(1) 大学の役割

○私たちが考えた大学の役割

今の社会に求められる人材を輩出すること

- ・コミュニケーション能力
- ・自発的に動く
- ・協働力
- ・必要な情報を絞ることができる
- ・幅広い視野 など

○役割を果たすために、大学は何をしなければいけないのか

教育の質の保証

①シラバス

- ・・・授業を選択する上で必ず見る

②アクティブ・ラーニング

- ・・・新しい学習の形



今の社会に求められる人材を輩出するために

テーマ選定理由(2) 大学の現状

○大学の現状はどうだろうか？

①シラバスと授業内容が
学生の想定と異なる場合あり。

②アクティブ・ラーニング
知識・理解が、教員・職員・学生
共々不十分。

シラバスで読んで
いた内容と違って
いた！

実際には
アクティブラーニング
を実施していた...

教員の意識、取組み方により充実度・理解度に差が出る



学生に影響



職員力の必要性



今の社会に求められる人材を輩出するために

テーマ選定理由(3) このテーマを選んだ理由

大学の役割、大学の現状を踏まえて、何が重要と考えたのか？

職員のあり方を見直す

- ・教員との関係、交流、相互理解
- ・職員の発想力、創造力、知識向上
- ・学生対応(教育者目線で)
- ・学び続ける姿勢(講習会、WG)



学生により良い環境を与えられる



今の社会に求められる人材の輩出



今の社会に求められる人材を輩出する

問題点の深堀

①シラバス(理想)

学生にとって到達目標がわかりやすい

科目によってその記述の差がない。

→求められる人材になるための指針

「この科目をとればこんな人になれる」

①シラバス(現状)

<教員>

・教員によってシラバス内容に差

<職員>

・教員が作り上げた内容を掲載するだけ・・・「作業」を行うだけ

②アクティブ・ラーニング(理想)

・アクティブラーニングを通じて社会が求める人材を育成するツール

②アクティブ・ラーニング(現状)

・知識・理解が、教員・職員・学生共々不十分。

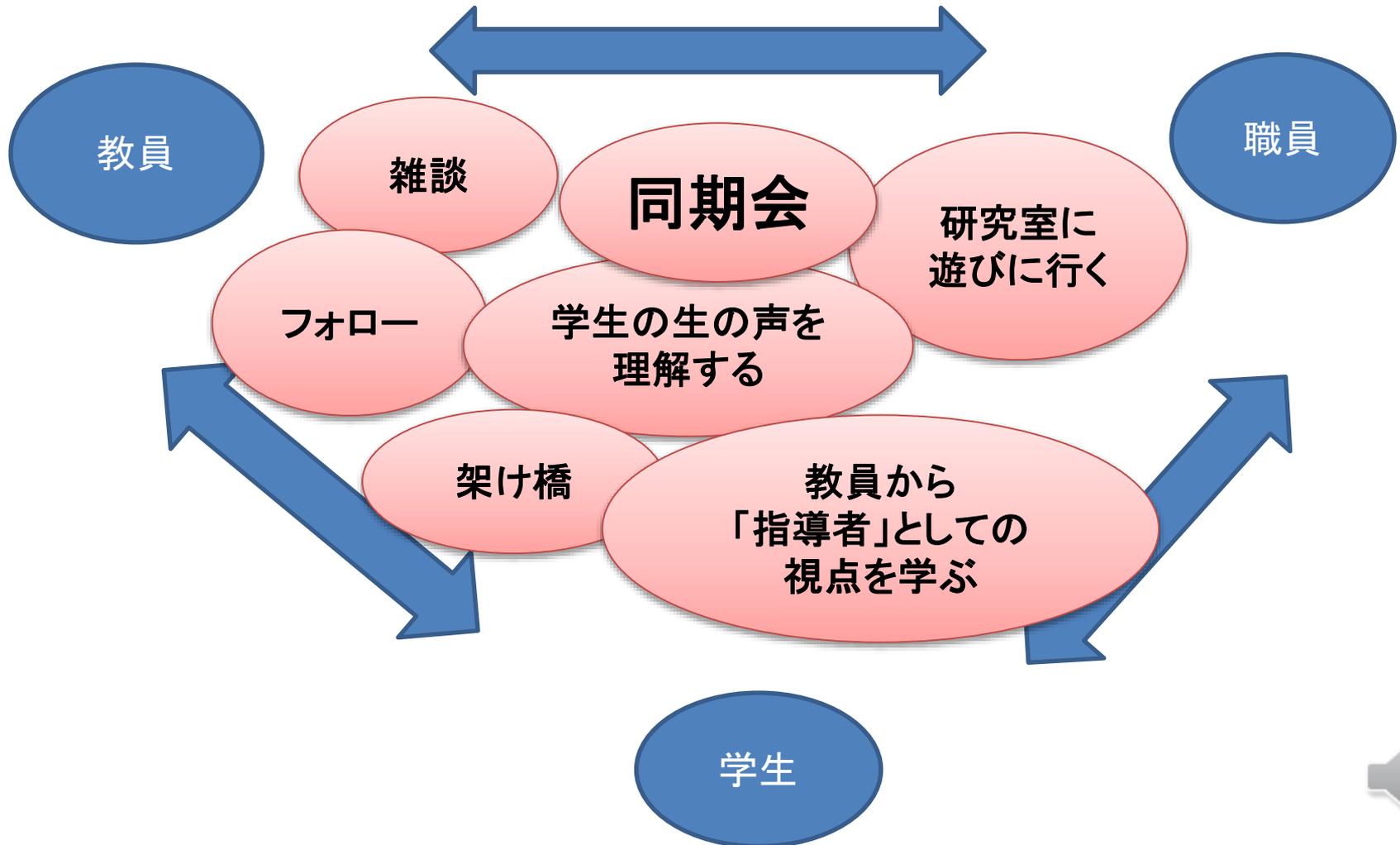
・補助金獲得のための手段化

→実施する本来の目的が理解されていない



今の社会に求められる人材を輩出するために

解決策の検討



今の社会に求められる人材を輩出するために

大学のイノベーションの提案

・問題を解決する方法として何を提案するのか
職員^{のあり方}・教員・学生との関わり方

・これを実現するために、どのようなアプローチが必要か。

- 教員への働きかけ

- 職員の役割

・解決されたときの姿(どのような状況になれば目的が達成されたといえるのか?)

コミュニケーション能力・自発的に動く・協働力・必要な情報を絞ることができる

・幅広い視野を持った学生＝「社会に求められる人材」